

# 遠い理解 招く誤解



発達障害者と仕事

上

「これもやっておいて」。上司から指示が飛んだ。東京都内にある国の庁舎。北陸地方出身で公務員になって間もない女性(二五)は、作りかけの報告書を置いて新しい仕事に取り掛かる。でも同僚から声がかかるたび関心が移り、気付けば何一つ終わらないまま。上司に注意され「一つの仕事をやり終えてから」と心に決めて集中したが、今度は急ぎの書類を放置してしまった。

優先順位が付けられず、マイペースで仕事を進める。「なぜ、こうしなければならぬんですか」と単純に理由を聞いたつもりが、「生意気」と怒りを買っこともしばしば。「状況や相手の意図を読むことが苦手。怒られて自分なりに改めたつもりが、全部裏目に出ている」と振り返る。

精神的に追い込まれ、鬱を疑って受診した精神科で初めてアスペルガー症候群と診断された。現在は休職している。

## ●告白し楽に

五回以上転職を繰り返して、今は医療福祉系の仕事に就く金沢市の男性(四〇)も相手の指示や意

## 「困った社員」企業手探り



図をくみ取れず、ミスを指摘されて働ける。前より生きやすくなった。知的な遅れがない高機能なりました」と笑顔を見せた。自閉症でちょっとした行き違いから仲間外れにされたりした。

## ●親は板挟み

「どうも人間関係がうまくい能力がないわけではないのに、生きづらさを抱える発達障害者も分りづら。本人が障害と認めず対策を取れない例もあり、企業は手探りの状態」と実感する。富山県でも仕事絡みの相談が増加。センターの担当者には「困った社員だと思われ、企業のリストラ対象にもなってしまう現実がある」と話す。

石川県の支援センター「パース」では、ここ数年就労関係の相談が増え、全体の三分の一ほどに。中島章雄センター長(六三)は「個性もバラバラで見た目にも分りづら。本人が障害と認めず対策を取れない例もあり、企業は手探りの状態」と実感する。富山県でも仕事絡みの相談が増加。センターの担当者には「困った社員だと思われ、企業のリストラ対象にもなってしまう現実がある」と話す。

親も不安を抱える。NPO法人アスへの会石川の谷口幸代理事長(四七)金沢市は「会社には子どもの特性に応じて対応してもらいたい。企業が生産性や効率を求めるのも分かる。親は板挟み」と複雑な心境を打ち明ける。

子どもの言動がわがままやしつけの悪さのせいにされ、情けない思いも経験してきた。「就職できて、その後が問題。理解を得て、働き続けるための道のりは長い」

発達障害への関心が高まっている。働きたくても就労の場がなかったり、就職後に人間関係に悩み辞めてしまったりする人が増え、職場では対応を模索する。金沢市に誕生した発達障害者向けの農業法人をきっかけに、雇用の実情と対策に迫った。●面参照

復職に向け、発達障害の本に目を通し自分の特徴を理解しようと模索する女性＝金沢市内で